

ビデオによる患者指導の試み

～T H A術後患者の脱臼予防をめざして～

1 病棟 7 階

○田中肅美 吉田京子 板垣伸子 大野陽子（手術部）

田村圭子 黒田由利子 石川多賀子（看護部）

I. はじめに

変形性股関節症の治療である人工股関節全置換術（以下T H Aとする）後の合併症の一つに、人工股関節の脱臼がある。人工股関節に、90度以上の屈曲・過度の内転・内旋位に力が加わることで起こる後方脱臼は、患者の、脱臼を起こすこの3つの肢位への十分な理解があることで、予防が可能である。

人工股関節の脱臼は、股関節周囲の支持組織が弱い、T H A術後2～3週間の時期に危険性が高い。当科では、T H A術後、患者は、7～10日のベッド上安静を経て、車椅子での離床開始となる。そのため、脱臼肢位・動作に対する看護婦の患者指導は、患者の、自己管理の必要性や脱臼予防への意識向上に繋がる役目を担っている。脇阪らは、人工股関節の術後5週未満の早期脱臼は、術後の肢位管理に問題がある¹⁾と報告しており、離床が、安全にスムーズに進むためには、患者指導がポイントとなる。

当科では、T H A術後患者の脱臼予防に関する指導は、その日の担当看護婦に任せた口頭での指導が主体を成している。しかし、この方法だと、看護婦によって指導内容・時期・方法が違う、実際の動作や脱臼の危険性が伝わらない等の問題があった。そこで、私達は、患者指導の統一を図る、移動動作時の一連の動きをイメージ化する、患者の脱臼予防に関する意識を高めることを目的に、T H A術後患者の脱臼予防に関するビデオを作成し、指導内容の見直しを行ったので、その経過を報告する。

II. 方法

1. 指導方法の振り返り

1) 現在の指導状況について、1病棟7階看護婦25名へアンケート調査

（アンケート内容に関しては表1参照）

2) 脱臼予防の意識について、T H A術後患者10名へ聞き取り調査

2. ビデオ作成

内容は、病棟での日常生活の中で最もよく行われる動作、危険肢位を伴う動作を選出し、人工股関節のしくみ・ベッド～車椅子への移動方法・トイレへの移動方法・シャワー浴の方法の4場面とし、視聴時間は20分とした。

3. ビデオを用いての患者指導

術前に、受け持ち看護婦が患者教育プランを作成し、ビデオを視聴した後、実際に移動方法を指導した。

Ⅲ. 結果及び考察

1病棟7階看護婦へ、現在の指導状況に関するアンケート調査をした結果、まず、脱臼肢位に関しては、前屈み姿勢（90度以上の屈曲）や内股（内転・内旋）にならないよう説明や注意をするが、どうして脱臼が起こるのかという説明までは行っていないという声が聞かれた。実際の移動動作を指導する時、実演し、脱臼ポーズをとって注意を促している看護婦もいるが、殆どは口頭指導のみで行っていた。次に、車椅子・トイレ・シャワー浴などの移動時の指導に関しては、術前の移動練習の不足のためか離床がスムーズに運ばない、患肢の免荷や転倒防止に注意が向き脱臼予防の指導が不十分、移動がスムーズにいくことに安心して肢位の確認が行われていない、などの声が聞かれた。

最後に、患者指導に関しては、術前の練習を徹底するとよい、一定の患者指導マニュアルがあるとよい、看護婦によって指導内容が違うため、患者に戸惑いや不安を与えているのではないかと、経験や勉強不足から自信を持って指導ができない、などの意見が出された。また、実際に指導を行い、離床を開始した患者の、追跡した指導の確認が成されておらず、離床のレベルに沿った継続看護ができていないという指摘もあった。

従来の指導は、初めての車椅子移動やシャワー浴時に、担当看護婦が個別に指導を行っているが、内容・方法等において一定のマニュアルはなく、それぞれに任せた方法で行っており、指導の統一性・継続性に欠けた。特に、術後の車椅子やトイレへの移動、シャワー浴の方法など、ADL上の安全な移動方法や肢位について指導内容に差があった。脱臼予防の意識についての聞き取り調査の結果、患者からは、脱臼の可能性があることは聞いたが、なぜ、どのように起こるのかわからない、口頭の指導だけでは、実際の移動動作や姿勢がわからない、イメージが湧かない、術前からの移動練習が不足し、術後不安である、などの意見が聞かれた。そこで、視聴覚に訴え、繰り返し活用できるビデオの作成に取り組んだ。

内容は、病棟でのADL上、股関節の屈曲・内転・内旋に繋がる動作の多い、前述の3項目を選出した。患者は、脱臼の危険性については術前に医師より説明を受けるが、人工股関節がどのようなものか、脱臼はどうして起こるのかということまでは、口頭による説明ということもあり、十分な理解ができていなかった。また、看護婦も患者指導の際、脱臼の機序については不十分であった。そのため、患者が、外転位保持の目的や脱臼の危険性を曖昧に捉えていたのではないかと考え、ビデオの内容に、人工股関節のしくみや脱臼の機序も取り入れた。ビデオは、患者対象に作成しているが、看護婦も視聴することにより、脱臼予防について再確認し、3つの危険肢位をポイントに、統一した、一貫性のある患者指導が望めると思われる。

次に、実際に作成したビデオを用いて、THAを受ける患者8名に指導を行った。その結果、患者からは、人工股関節のしくみ・脱臼の機序がよくわかった、移動動作時の危険肢位が理解できた、実際に移動する時ビデオの動作を思い出し役だった、ビデオを見ることで移動時の不安が軽減した等の声が聞かれた。人工股関節の形態や日常生活における具体的な動作・肢位を、画面を通して確認することで、自分の疾患や普段の動作における危険性に理解が深まったのではないかと考える。また、術前から移動練習を行ったり、看護婦に積極的に質問する姿勢も見られ、脱臼予防に対する関心が高まり、自

己管理への動機付けになったのではないかと考える。

指導した看護婦からは、口頭の指導より指導し易い、自己学習の機会となった、ビデオにより統一した指導ができる、受け持ち看護婦としての自覚や責任を感じた等の声が聞かれた。脱臼予防に関する基本的な内容を再確認したことで、看護婦間の指導内容の差がなくなり、患者に一貫した指導が行えるようになった。また、指導の時間をもつことで、患者の抱えている不安や疑問を引き出し、患者の理解度に合わせながら、ステップアップの方法で、解決・指導が行えるようになった。

IV. まとめ

1. T H A 術後患者の脱臼予防に関する指導の見直しを行い、ビデオ作成に取り組んだ。
2. ビデオ指導により、脱臼予防に関する患者の理解・認識が高まり、離床・自立が円滑かつ安全に進んだ。
3. 指導方法の見直しにより、看護婦の指導の統一が図れた。

V. おわりに

今回、ビデオを用いて脱臼予防に関する患者指導を行い、ビデオの有用性を感じた。

今後は、事例を重ねて、内容を評価するとともに、指導の方法・時期を検討していきたいと考える。

引用・参考文献

- 1) 脇阪敦彦 他：T H A 術後脱臼例の検討、中部整形災害外科学会誌、37(5) 1305～1306、1994
- 2) 紙屋克子：特集・新しい体位変換、おはよう21、24～37、Vol. 2-No. 4 1992-3
- 3) 百瀬悦子：人工股関節の再置換を受けた変形性股関節症患者の看護；脱臼を起こして緊急入院した患者の退院指導を振り返る、クリニカルスタディ、26～31、Vol. 12-No. 3 1991-3
- 4) 長谷川芳子 他：基礎看護技術のビデオ作りに挑戦して、看護教育、422～428、33/6 1992-6
- 5) 板倉喜代美 他：非失禁型尿路変更術患者の膀胱洗浄指導ビデオ作成の効果、第26回 成人看護Ⅱ、224～226、1995

表 1. 現在の指導状況に関するアンケート調査

～ T H A 術後患者の脱臼予防に関する指導について～

以下の項目に、具体的にお答え下さい

1. 脱臼肢位に関しての説明をどのように行っていますか。
2. 車椅子移動時の指導に関して困っている点・問題点をあげてください。
3. トイレ移動時の指導に関して困っている点・問題点をあげてください。
4. シャワー浴時の指導に関して困っている点・問題点をあげてください。
5. 患者指導に関して意見をお聞かせください。